



豊東小だより

令和3年4月30日 5月号
練馬区立豊玉東小学校
校長 梅津 靖子

よい習慣を身に付ける

校長 梅津 靖子



ハナミズキの白い花が咲き誇り、桑の木には、青い実が付き始めました。若葉の緑が目まぶしい心地よい季節となりました。

令和3年度の教育活動が始まって1カ月。毎朝の代表委員のさわやかな挨拶の声と登校する児童の挨拶の声とが響き合い、豊東小には朝から活気がみなぎっています。代表委員の児童が、「おはようございます。と声をかけた時、挨拶を返してくれると嬉しいですね。もっと挨拶をがんばろうと思います。代表委員になってよかったです。」「今日は、1年生が、手を挙げながら「おはよう。」と言ってくれて嬉しかったです。1年生は可愛いですね。」とにこにこしながら話してくれました。朝の「おはよう」の挨拶が嬉しい気持ちで心を満たし、今日も頑張るぞという気持ちにしてくれるのですから、挨拶とは、何とも素敵な魔法の言葉です。1年生もしっかりと目を見て、挨拶を返すことを頑張っています。また、6年生が丁寧に教えたりお世話したりしてくれたからでしょう。1年生も学校生活のリズムをすぐに覚え、授業でも先生や友達の話をよく聞いてしっかりと学習しています。給食の準備も上手にできています。そして、どの学年の児童も、新しい仲間と共に、これまでよりも成長できるようにと頑張る一生懸命な気持ちが伝わってきます。充実した4月となりました。



相手の気持ちを想像してみる

1年生の教室を回っていると、国語の授業をしていました。友達が転んでしまった場面の絵や水の入ったバケツを重たそうに持っている友達を見つけた場面、休み時間に遊びの仲間に入れてもらおう場面など様々な場面設定の絵を見て、どのような言葉をかけたらよいのかを考える学習でした。子どもたちからは、相手を気遣ったやさしい言葉が次々と発表されました。その発表を他の児童もよく聞き、自分だったらどう言うかを考えています。先生は、その一つ一つの言葉を丁寧に取り上げ、子供たちに返していました。また、遊びの仲間に入れてほしいと問いかけている場面での人物の表情にも着目させ、「みんなが笑顔ですね。「いいよ。」と言ってもらって嬉しかったんだね。」と、相手の気持ちを考えながら言葉のやり取りができると、表情も笑顔に変わることを伝えていました。



体験をとおして覚える

昨年度1年間は、全校が集まった朝会や集会ができませんでした。4月の1年生を迎える会で全校が8時25分に集まるという体験は、随分と久しぶりのことでした。当然2年生は、時間を守って朝会に出るという練習が全くできていなかったわけですから、時間に遅れずに集合しましょうと言われても、何のことなのか分かるはずありません。そこで、4月末の全校朝会(リモートで実施)には、2年生だけが体育館に集合する練習をすることにしました。そのために、前の週に練習してみると、3割の児童しか時間どおりに集まることはできませんでした。この結果を受け、時間を守ること、集合したら話をしないこと、話の聞き方などを全体で確認して、月曜日の全校朝会に臨むことになりました。当日は、1度だけの練習だったにもかかわらず、ほぼ全員が時間を守って集合することができた上に、話の聞き方もすばらしい態度で立派でした。次の機会も同じように挑戦し、よい習慣が身に付くまで、教えられたことを繰り返し実践することが大切です。習慣は、繰り返し繰り返しの体験によって身に付いていきます。よい体験を積み上げたいものです。